

平成 25 年度第 4 回経営会議概要

- 1 開催日時：平成 25 年 11 月 12 日（火）15:00～15:25
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり
（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

議題 1 総勤務時間縮減運動について

●森行財政改革推進課 課長（資料 1 に基づき説明）

知事・副知事からは、目標設定の段階から昨年実績を超えるような設定の部局もあったことは残念であり、積極的なマネジメントで実績は大きく減るよう努力し、上半期の実績を踏まえてもう一度議論し、当初目標から上方修正をすることを期待していたが、現実にはそうした状況になっていない。上半期の実績の段階で、既に各々設定していただいた年度当初の時間外勤務数にかかる目標達成は無理という見込みの部局が半分以上という状況になっている。対応策としては、画期的なものはないが、P2のとおり、地道なマネジメントを日々繰り返す、業務改善を実行に移す、新たに作成したスタンダードルールを常に念頭に置いて実践していただく、そうしたことの結果として数値に表れてくると考えている。部局長が、本気になって時間外勤務を縮小しようと取り組んでいただくようお願い申し上げます。

●稲垣総務部長

先ほどの説明のとおり、目標を達成するのが非常に厳しい現状である。時間外勤務時間の目標が達成できない理由については「資料 1-4」のとおり提出してもらった。これを見ると部局長には、一定の努力はしていただいているが、対応策等をみても、時間外削減は二の次になっており、部局長の迫力があまり感じられない内容である。年度初めに目標を定めたわけであるので、目標が達成できるよう努力をお願いしたい。時間外勤務については、とにかく地道なマネジメントを継続していくことが大事と考えているので、よろしくをお願いしたい。

知事はいかがか。

☆鈴木知事

どうして時間外勤務は減らないのか。

☆世古スポーツ推進局長

下半期に向けて努力しているところである。仕事の質が変わったり、あるいは職員のスキル・経験が不足していたりだとか、複合的に要因が絡んでいると考えられる。

☆鈴木知事

総勤務時間はこの10年間で年々減ってきており、また年休等も増えてきているのになぜ時間外だけが減らないのか。

☆水谷地域連携部長

気持ちの問題であると思う。コスト意識が足りないと思うので、強く職員に伝えたい。

☆鈴木知事

職場の雰囲気や、職員の働き方の細かなところはわからないところもあるので、自分のことは差し置いてでもよいので、どうやったら減るか、どういうことが原因かということについて、教えてほしい。「資料1-4」の「業務等の理由」というなかで、災害の発災や漏水トラブルはある程度仕方がないが、それ以外については、事務量が増えることは事前に把握できているはずであるが、目標が達成できないのはどうしてか。私も資料をよく直せと言うので、自分のことを差し置いてではあるが、そういったことも影響しているのか。

☆北岡健康福祉部長

毎日30分でも早く帰る、一本でも早い電車に乗るという気持ちが、どこまで職員にあるかということではないか。健康福祉部では、事前命令を徹底して、職員一人ひとりに意識してもらおうとしているが、うまくいっていない。職員一人ひとりに意識を持たせるには、課長に強く意識を持ってもらい、時間外が必要な業務かどうかのやり取りをしてもらう必要があると考えている。

☆山口戦略企画部長

意識の問題は、大事だと思うが、意識だけではなく仕組みも必要だと思う。資料を修正する可能性があるレクは、午前中に行うよう変更した。また、何度も資料の修正することがないよう課長、部長が的確に修正指示をする必要がある。また、職員の能力をあげていくOJTも大事である。

☆鈴木知事

資料の作成が多いので、時間外勤務につながるのか。

☆橋爪農林水産部長

補正予算等で膨れた業務のように業務増が目立ったものは、業務分担を見直して手を打ったが、全体が底上げされることには対処できなかった。連続休暇が一人も取れていない課については、課長会議等でとれるように配慮をお願いしている。

☆石垣副知事

言い訳にはならないが、定数が減っているし、仕事量が増えている。議会等の資料も大変であると思う。議会では関係ない人は帰ってもらうことである。私の前の部長は、議会になると全員残していたが、私は、関係ない人を

帰らせたところ、時間外勤務は半分に減った。

●森行財政改革推進課課長

総勤務時間は減って、休暇等は増加しているため、定数が減って、仕事量が増えているとは一概には言えない。

☆植田副知事

精神論ではなく、物理的に電気消すとか、できない状態にしないと帰れない。強制的なこともやる必要がある。

☆山川雇用経済部長

水曜日のノー残業デーに、用のない人は帰るよう声掛けを始めたところ、帰る人が増えた。三重県職員は熱心で一生懸命やっているなので、今日だけは帰ろうと言っている。

☆鈴木知事

そうしたことは、すぐに他の部局長も実行できるのではないか。

☆北岡健康福祉部長

ノー残業デーは、その日は帰っても仕事が減る訳ではなく、翌日に残業することにもなるので、時間外の縮減にはあまり意味がないと考えている。

☆鈴木知事

稲垣部長も言ったように、そもそも時間外の目標が昨年度実績を上回るのも理解できなかったが、上半期見込において既に達成できないということも納得できない。なぜ達成できないかを考えてもらって、県民カビジョンの目標と同じく、時間外勤務の目標も必達意識を持ってほしい。部局長研修でお話の合った行動マネジメントと環境マネジメントということであれば、環境マネジメントとして時間外勤務の目標を達成することをお願いするので、行動マネジメントはお任せする。単に数時間削減すればいいということではなく、時間外勤務は特例という意識を持って取り組んでほしい。

やりたい事業も予算が縮減されていてできないのに、時間外勤務の財源であの事業もできたのということがみなさんの努力で何とかできるのであればと思うのでよろしくお願いしたい。